

原 著

小学2年生を対象とする描画を取り入れた健康教育 － 児童の心と体の健康認識について －

吉田あや子*

<論文要旨>

本研究は、小学2年生の描画と説明文を中心に分析した結果、健康教育の実践に役に立ついくつかの考慮すべき児童の健康認識が促えられた。

多くの子どもが、友達と楽しそうに遊んでいる様子を描いており、遊びや運動が心と体を元気にする上で重要と考えており、ケンカしないことや生き物を大切にすることも、心を元気にすることにつながるのだと捉えていた。一方、早寝・早起き、好き嫌いのない食事、うがいや手洗いなどはあまり実行されていなかったが、重要なことと理解し、実行しようとする姿勢がみられた。

以上のことから、小学校低学年においては、心の中にある印象・記憶をそのまま描画で表現しようとする子どもの特性を活かし、描画を取り入れた授業が効果的な健康教育になり得る事が示唆された。

キーワード：心と体の健康 健康教育 描画 児童 健康認識

1. はじめに

最近、子どものいじめ、登校拒否など「心の健康」に関して、養護教諭の健康相談能力の向上や学校カウンセラーの導入など、個々の子どものニーズに応じた対応が図られてきた。しかし、「生命を尊重し、健康を重視する」というごく当たり前のことが理念的には叫ばれているが、教育実践の中で定着していないのが現状である。

健康意識は時代や環境に影響されるものであり、今時の子どもは外での運動や遊びが少なく、夜更かしする子どもが増えている中で生活習慣のみだれが指摘されている。⁽¹⁾ 生活習慣病が、今では子どもにも多くなってきており、子どもの健康問題を家庭や学校で何とかしなければならない状況となっている。

このような状況で、新学習指導要領の改訂⁽²⁾では、保健教育へのライフスキル教育の導入や、各教科時間数が一律に削減される中で、「児童の発育・発達早期化や生活習慣の乱れなどに対応するために、小学校の第3、4学年に新に保健領域が設けられ、保健学習は科学的認識と判断・思考能力の発達をめざし、保健指導は具体的問題に即した実践的能力の発達をめざす⁽³⁾」という従来の保健教育の目標観の再吟味が求められてきている。また一方では、生涯教育の実践が叫ばれており、ライフサイクルを踏まえた生涯保健の重

要性も強調され始めている。

とりわけ、これまでの保健教育はしつつけ的であったり解説的であったりして面白くないとの批判があった。授業の楽しさには、教師の人間性や話し方のおもしろさから、話題の楽しさ、追求する授業の方法の楽しさなどいろいろなレベルがあるが、本来の授業の楽しさとは、「一定の価値あることがらについて皆で深く追求しながら、なるほどと納得しながらわかっていき、そしてそのことが身になったという実感や喜び、充実感などの感情である⁽⁴⁾。」と考えられる。さらに、深い意味での楽しい授業とは、授業者が子どもに価値意識まで含む内実追求の喜びが含まれる授業構想つまり、楽しさだけの追求ではなく、何を子どもの中に育てようとするかである。学習することによって育つものが学習者である子ども自身に意識されていなければならないと考える。授業者に求められるのは、子どもの中にどのような認識を育てるのかという願いがかなうような学習プロセスを提供できるかである。

次に、児童の描画についての先行研究を見てみよう。美術教育については西欧において100年ほど前から、それまでの技法の習得を押しつける図画教育を見直し、革命的に指導方法が改善されてきている。今日の美術教育に新しい道を開いた偉大な美術教育家としてよく知られているフランツ・チゼックは、多くの児童の描画を分析した結果から、子どもの絵の描き方が大

* 西南女学院大学保健福祉学部 福祉学科 講師

人と全く異なっていることに気づき、「子どもは現実を見て描こうとしない。心の中にある印象、記憶の映像をそのままに表現しようとする。それによって自分を表現しようとする。」ということを彼自身の観察によって発見し、「子ども達の創造の意欲を高めるように刺激を与えることだけに努め、子どもが自由に思い思いに表現することが大切である⁽⁶⁾」とした。ドイツでは、ルーケンスが、「子どもは物語や実際のことがらを描きたがるものであり、幼稚園や小学校では自由に各自の考えに従って人物などを盛んに描かすべきである。

⁽⁷⁾」と述べている。イギリスのジェームズ・サリーは、「子どもは見たものを描くのではなく、知っているものを描くものであり、10歳までは実物からよりも創造や記憶から描く。⁽⁸⁾」と述べている。また、アメリカの心理学者スタンレー・ホールは、児童画の心理学的な重要性を認めると同時に芸術性を高く評価しており、「児童には一切制限せず、批評もなるべく少なくして、自由な活動的な絵を描かせなければならない。⁽⁹⁾」と言っている。

さて、以上のようなことから、本研究は、小学2年生による描画を取り入れた学習方法で「児童が自分の健康つまり心や体の健康をどのように認識しているのか、そしてまた、心と体が健康になるためにどのようなことをしようと考えているのか。」を表現してもらい、これを分析し、健康教育の一助とすることを目的とした。

2. 研究方法

1) 調査対象及び調査日

福岡県内のY小学校2年1組、2組の男子36名、女子36名を対象に、2001年7月上旬に特別活動の授業として行った。なお、本研究を進めるにあたって事前に、校長先生、学級担任、児童のみなさんの了解を得た上で実施した。これらのクラスの児童は、事前に「私たちの体について学ぼう―排便について―」学習をしている。

2) 調査方法及び分析について

対象の2クラスとも同じ方法で、学級活動の1時間を使って「心とからだを元気にしよう」というテーマで学級担任による指導を行った。導入で、「心とからだを元気にするには、どのようなことに気をつけたらいいのかなあ。」とクラス全員に発問をし児童に考えてもらい、それから自分で気をつけることを絵とお話にし

て描いてみようという授業展開であった。

調査用紙については、B5用紙の上半分に、児童自身が考えた心や体が健康な時、元気な時の絵を色鉛筆で描き、その下半分には、元気になるにはどんなことをしたらいいのかをお話として文章で書いてもらった。なお、用紙のサイズは発達段階を考慮して、1時間で完成できるように設定した。

学級担任はともに、児童が集中し、作成に取り組んでいる間はその様子を見守りながら机間巡視を行った。

分析については、児童の描画と説明文を個別に総合的に分析、さらに男女別、心と体、生活習慣病の予防を考慮した分類で分析を行った。描画の分析については、国内・国外の健康教育研究者の意見を参考にした。

3. 結果

テーマを「心とからだを元気にしよう」とし、「元気になるにはどんなことに気をつけたらいいのかなあ」と発問し、各自で考え、それを絵とお話として書いてもらった結果を以下に述べる。

1) 描画の結果

児童の描画と文章の内容をそれぞれ分析した結果の一部を以下に示す。

Fig 1: 友達と3人でゴールキーパーの前でシュートしている絵(男子の絵、No.111)。説明文としては「外から帰ったら手を洗って、ハンカチで手を拭くようにする。」であった。

Fig 2: 友達と4人で握手して仲直りしている絵(男子の絵、No.110)。説明文としては「ケンカをするのをやめようと思いました。だからもう、ケンカをするのをやめます。」であった。

Fig 3: 友達と3人で、縄跳びをしている絵。(女子の絵、No.230) 説明文としては「○○ちゃんと○○ちゃんと縄跳びをしています。前跳び、後ろ跳びをしました。」であった。

Fig 4: 友達と4人で手をつないで仲良くしている絵(女子の絵、No.129)。ハートに「心」の字を描きいれている。説明文としては「私は友達と仲良く遊ぶことにしました。友達と遊ぶと心がウキウキしてくるからです。一人で遊ぶより友達と遊んだほうがいいからです。」であった。

Fig 5: 友達と楽しく給食を食べている絵(女子の絵 No.126)。説明文としては「好き嫌いをしないよ

うにしようと思いました。よくイカや海老を残していたけど、今度は給食を残さず食べようと思いました。」であった。

Fig 6: 朝、布団の上で爽やかに目覚めている自分の絵。

「すっきりするな」と言っている。(女子の絵No.124)。説明文としては「心と体を元気にするためには、夜早く寝て、朝早く起きることだと思います。だから、私は早寝早起きをします。」であった。

Fig 7: 金魚とカニの水槽の横でニコニコしている自分の絵 (男子の絵No.102)。説明文としては「僕は生き物係なので、もっといっぱい金ちゃんと遊びたいと思います。カニの特徴はハサミだから、挟まれそうで恐いです。けど、大好きです。生き物を大切にしたいです。」であった。

Fig 8: 太陽の下でニコニコしている自分の絵。足元にアリやその他の虫がいる。(女子の絵No.224)。説明文としては「私は虫を大切にしたいと思いました。ちっちゃいアリも踏まないようにします。虫を捕まえたら逃がすようにします。ミミズを切らないようにします。」であった。

身体を動かす遊びや運動の描画が男子29名、女子で27名であった。それらの中でも男子ではサッカー、女子は学校の休み時間での遊びであり、いずれも学校とかかわりのある運動であり、遊びである。学校から帰って、あるいは休日に友だちと遊んでいるのが明らかに示されている描画は 男子に1例のみであった。

2) 説明文の結果

児童が描いた絵の説明文の結果を表1に示す。「心の健康にかかわるもの」について、①友だちと仲良く／けんかしない、②生きもの・動物を大切にする、③その他、の3つに分類、一方「体の健康にかかわるもの」については、①外での運動／遊び、②休養・睡眠、③食事・栄養、④衛生、その他、の4つに分類することができた。

体の健康の視点では、男子の場合は、①運動／遊びに関するものでは、「外で元気にあそぶ。大きな声を出す。」「外で元気に遊んで、体をきたえる。」「サッカーをして楽しかった。」「ソフトをしたら心が楽しくなります。」、②休息／睡眠では「早ね早おきをこんでからちゃんとしよう。」「9時5分に寝るけど、早く起きます。今日から早く寝るようにします。」、③食事・栄養では「好き嫌いをなくすために、給食をがんばって食べます。」「野菜をいっぱい食べることしよう。」、④

衛生・その他では「外から帰ったらちゃんと手を洗う。ハンカチで手をふく。ハンカチを忘れないようにする。」「外から帰ったらうがいや手洗いをする。」「大きな声で本を読んで体を元気にする。」等であった。

一方、女子の場合では、①運動／遊びでは「これからいっぱい運動をして風邪をひかないように気を付けます。」「運動をして心が嬉しかった。」「運動はきついけど楽しいです。」、②休息／睡眠では「早寝早起きを毎日します。」、③食事・栄養では「よく、えびやいかを残していたけど、今度は給食を残さず食べようと思いました。」「今度から、野菜をいっぱい食べることにしました。あと、好き嫌いをしないようにする。」、④衛生・その他では「運動をしたら、帰って汗を拭いて飲物を飲む。」「外から2-2に帰ったら忘れないで、手あらい、うがいを気をつけようと思います。」等であった。

また、体の健康に関する説明文の集計結果は、表2に示すように運動／遊びに関する説明文が多く、男子25名、女子17名であった。

心の健康の視点では、男子の場合は、①仲良く／けんかをしないでは「友だちとケンカするのをやめる。」「人に嘘をつかないようにします。けんかをしないようにします。」、②生きもの・動物を大切にするでは、「生きものは命があるので大切にしていけない(一年生が来るまでおいてあげたい)。」「死んだらかわいそうだから生きものを大切にしようと思いました。」等の心の健康を意識したものであった。

一方、女子の場合は、①仲良く／けんかをしないでは「お友だちとけんかをしないようにしようと思います。お父さんもそう言っています。」「友だちと仲良く遊ぶことにしました。友だちと遊ぶと心がとてもウキウキしてくるからです。一人で遊ぶより、友だちと遊んだ方がいいからです。」「自分が嫌なことは人にしない。けんかをしないようにする。」、②生きもの・動物を大切にするでは「虫を大切にしたい。ちっちゃい蟻も踏まないようにします。虫をつかまえたら、逃がすようにします。みみずを切らないようにする。」「カニははさみを持っているから怖いけど、好きだ。」、③その他では「嘘をつかない。嫌なことをしない。」「いじけないようにする。」「先生と仲良くして、歌を聴かせてもらって、オルガンをひきたくなった、歌いたくなった。首を振って楽しかったので、先生を好きになったみたいな気がしました。これからも離れていないで先生と友だちになりたいな。」等であった。

また、心の健康に関する説明文の集計結果は、表2

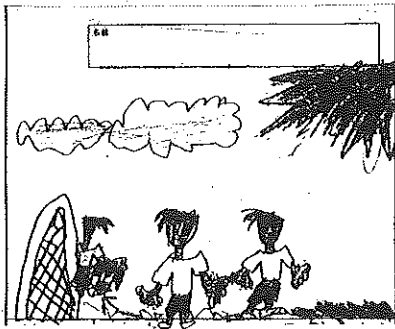


Fig.1 Playing soccer with his friends in friendship.(M)
友達と仲良くサッカーをしている (男)

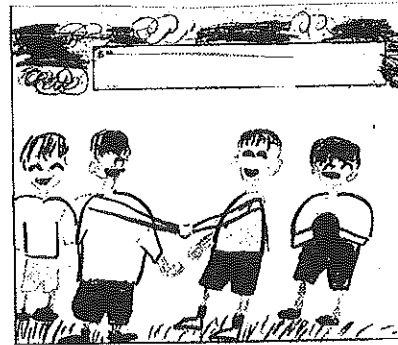


Fig.2 Not quarreling with his friends and making friend with his friends.(M)
友達とのけんかをせず、仲良くする (男)

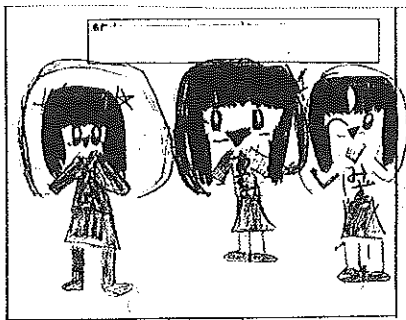


Fig.3 Skipping rope with my friends in friendship.(F)
友達と仲良く縄跳びをする (女)

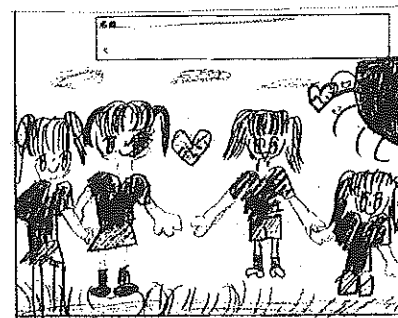


Fig.4 Playing in company with her friends cheerfully(F)
友達と仲良く遊んでいる(心がうきうきする) (女)

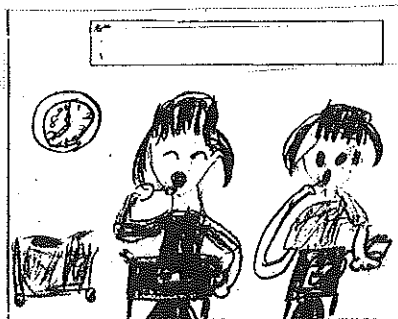


Fig.5 Eating a school lunch without tastes with her friends (F)
好き嫌いをしないで給食を食べる (女)

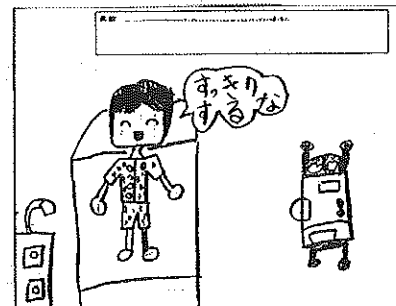


Fig.6 Going to bed early and getting up early "I feel refreshed!" (M)
早寝・早起きをする (スッキリする) (男)

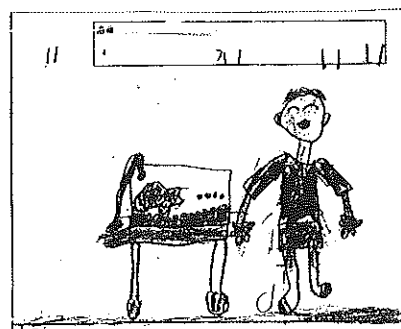


Fig.7 Taking care of animals (a gold fish) safely (M)
生き物を大切に世話する (男)

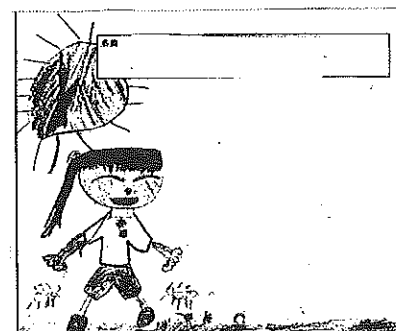


Fig.8 Treating insects (ant) kindly (F)
アリや虫を大切にする (女)

に示すように友達と仲良く／けんかをしないに関するものが多く、男子8名、女子9名であった。

男女ともに人間関係や生きものの世話、つまり友達や先生とのふれあいや生きもののふれあい・交流が健康に大切なこととして表現されていた。

表1 2年生の健康認識（説明文の結果）

	からだの健康				こころの健康		
	①運動／遊び	②休憩・睡眠	③食事・栄養	④衛生	⑤仲良く／けんかしない	⑥生きもの・動物を大切に	⑦その他
男子	<ul style="list-style-type: none"> ●外で元気にあそぶ。大きなこえを出す。 ●うんどうを家でしようとおもいます。 ●運動をしてこころからだを元気にしようと思いました。外で元気に遊ぶ。 ●外で元気にあそぶようにします。サッカーをします。 ●サッカーしてたのしかった ●そとでげんきにあそんで、からだをきたえる。 ●ソフトをしたら心がたのしくなります 	<ul style="list-style-type: none"> ●早ね早おきをこんどからちゃんとしよう ●こんどもげんきにしよう。9時にねるようにしよう。 ●9じ5ふんにねるけど、はやくおきます。きょうから早くねるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●やさいをいっぱいいたべることをしよう ●すききらいをしないようにする ●すききらいをなぐすために、きゅうしょくをがんばってたべます 	<ul style="list-style-type: none"> ●外からかえったらちゃんと手を洗う。ハンカチで手をふく。ハンカチをわすれないようにする。 ●（水道水で洗いうして消毒している絵） ●外から帰ったらうがいやてあらいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ともだちとけんかするのをやめる ●みんなとけんかしないで、みんなであそぶ ●ひとにうそをつかないようにします。けんかをしないようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いきものはいのちがあるので大切にしていけない（一年生が来るまでおいてあげたい） ●しんだらかわいそうだからいきものをたいせつにしようとおもいました ●いきものをたいせつにしてあげなくてはいいけないのです 	<ul style="list-style-type: none"> ●ひとにうそをつかないようにします ●うそをつかない
女子	<ul style="list-style-type: none"> ●これからいっばいうんどうをしてかぜをひかないようにきをつけます。 ●とびばこをするためうんどうをしています。 ●なわとびをしています ●うんどうもがんばろうと思います。プールでしっかりおいで学校たいいくでしっかりうんどうしようと思います。 ●うんどうをしてこころがうれしかった ●うんどうはきついでたのしいです 	<ul style="list-style-type: none"> ●早ね早おきをまいにちします 	<ul style="list-style-type: none"> ●よく、えびやいかをのこしていたけど、こんどはきゅうしょくをのこさずたべようとおもいました。 ●こんどから、やさいをいっぱい食べることにしました。あと、すききらいをしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心とからだを元気にしよう。ばいきんをおとそうとおもいます。 ●うんどうをしたから、かえってあせをふいてのみものをのむ ●うがいをわすれないようにする ●そとから2-2にかえったらわすれないで、手あらう、うがいを気をつけようとおもいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●おともだちとけんかをしないようにしようとおもいます。おとうさんもそういつています。 ●ともだちとなかよくあそぶことにしました。ともだちとあそぶと心がとてもウキウキしてくるからです。ひとりであそぶより、ともだちとあそんだほうがいいからです。 ●ともだちとなかよくあそぶ。心とからだをげんきにするためです。心とからだをげんきになるとたのしいからです。 ●じぶんがいやなことは人にしない。けんかをしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●むしをたいせつにしたい。ちっちゃいありもふまさないようにします。むしをつかまえたなら、にがすようにします。みみずをきらないようにする。 ●うんどうをいっばいして、いきものをたいせつにしたり、そとでげんきよくあそんだりして、こころからだをたいせつにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●先生となかよくして、うたをきかせてもらって、オルガンをひきたくなった。うたいたくなった。首を振って楽しかったので、先生を好きになったみたいない気がしました。これからもはなれていないで先生ともだちになりたいな。 ●うそをつかない。いやなことをしない。 ●いじけないようにする。

Table1 : The recognition about both mental health and physical health of the second grade children in the elementary school. (summary of the explanation sentence.)

表2 2年生の健康認識の分類

区 分	全 数	A. 運動／遊び	B. 休憩・睡眠	C. 食事・栄養	D. 衛生・ その他	E. 仲良く／け んかしない	F. 生き物・動 物を大切に	G. その他
2年1組男子	18	11	7	3	2	5	5	0
2年1組女子	18	9	2	4	2	8	2	1
2年2組男子	18	14	0	1	4	3	0	2
2年2組女子	18	8	0	0	8	1	1	4
2年男子計	36	25	7	4	6	8	5	2
2年女子計	36	17	2	4	10	9	3	5
2年合計	72	42	9	8	16	17	8	7

Table2 : Categorized 7 recognition about mental health and physical health

4. 考 察

1) 健康により自分の体験と行動変容

「心と体の健康によいこと」について考える中で、すでに子ども自身が実行していることを思い起こして、それを絵に描いている。表現した描画から自分の実行していることが心と体の健康にとってよいことだとわかり、澁刺とした楽しい絵を描くことができたのだろうと考えられる。例えば、友達との遊びやサッカーなどの運動については、「運動をして心が嬉しかった。」「運動はきつけれど楽しい。」「ソフトをしたら心が楽しくなります。」などの友だちと楽しく遊んでいる自分の絵、サッカーを楽しんでいる自分の絵を描いている。また、友達と仲良くすることについては、「友達と遊ぶ。なぜ遊ぶか」というと、心とからだを元気にするためです。心とからだ元気になると楽しいからです。」「友達とよく遊ぶことにしました。友達と遊ぶと心がウキウキしてくるからです。」としている。生き物を大切にすることについては、「僕は、生きものの係なので、もっと金ちゃん（注：金魚の愛称）と遊びたいと思います。」「死んだらいやだから、生き物を大切にしようと思いました。」と楽しそうに金魚の世話をする自分を描いている。

次に、自分自身の日常生活を振り返って、心と体の健康に役立つことで、まだ自分ができていないことについて、これから気を付けて実行していこうと決意した表現をしている児童の描画もあった。例えば、休養や睡眠については、「9時に寝るようにします」「早寝早起きを今度からちゃんとしよう」「今度から9時に寝て、6時に起きるようにする。」「今日から早く寝るよ

うにします。」などの寝ている自分の状態や早寝早起きで元気に遊んでいる状態等を描いている。食事や栄養については、「よく海老やイカを残していたけど、今度は給食を残さず食べようと思いました。」「今度から野菜をいっぱい食べることにしました。あと、好き嫌いをしないようにしました。」「僕は好き嫌いをなくすために、給食をがんばって食べます。」と友だちと机を並べて給食を食べている自分達を描いている。仲良く遊ぶ、ケンカをしないようにするについては、「友達とケンカするのをやめようという意見が出たので、ケンカするのをやめようと思いました。だからもう、ケンカするのをやめます。」とニコニコしている自分と友だちを描いている。生き物を大切については、「私は虫を大切にしたいと思いました。ちっちゃいアリも踏まないようにします。ミミズを切らないようにします。」「足元の蟻などを踏まないようにしている笑顔の自分を描いている児童もいた。

2) 子ども達の考える健康と描画

子ども達の絵と説明文から、体をより良く発育、発達させるために必要とされる運動・遊び、食事・栄養、睡眠、衛生に関するもの、そして心を育てていこうとする気持ちの表れとして、友だちと喧嘩をしない・仲良くする、生きものを大切にする等に分類される結果であった。

子ども達の運動・遊びについて考察すると、男子の場合は、例えば友だちと仲良くサッカー、ソフトボールなどを行っている描画や文章表現が多くあり、それを媒介に友達と触れ合う喜び、友達と一緒にいることの楽しさを実感していることが窺える。女子の場合は縄

跳びやブランコに乗って友だちと遊ぶ楽しさ、交流を実感している。男女の遊びの違いはあるが、一人で遊ぶより仲良く多くの友だちと遊ぶことが、「心と体を元気にすること」につながるのだと捉えている。言い換えるならば、ただ好きな運動や遊びをするからではなく、外で友達と仲良く元気よく運動したり遊んだりすることで、自分が心も体も健康でいられるのだと認識している様子が窺える。

また、生きもの・動物を大切にすることで心が癒される実感を経験する一方で、「アリを踏んだり。」「ミミズを切ったり。」等のいたずらを経験したことで、生き物に悪いことをしたという気持ちを持ったからこそ「虫を大切にしたい、ちっちゃいアリも踏まないようにします。虫を捕まえたなら、逃がすようにします。」「ミミズを切らないようにしましょう。」と行動変容を決意した描画や文章をかいていると思われる。

一人ひとりの子どもの描画や文章を心と体について分類し、さらに総合的に分析を行ったところ、殆どの子ども達は心と体の両方について表現しており、生き物に対する思いやりや友だちと一緒に遊びや運動での快感を実感しており、心と体の健康の両方が同時に自分にとって大切であることを認識していることが示唆された。

本研究では遊びそのものについて質問したものではないが、男子ではサッカー・ソフトボール、女子は学校の休み時間での遊び等であり、いずれも学校とかかわりのある運動であり、遊びである。学校から帰って、あるいは休日に友だちと遊んでいる様子の描画は、男子に1例のみであり、子ども達の遊びは学校文化による遊びが多く、地域での群れ・仲間遊びや遊びに夢中になる体験が減少していることが窺える。

3) 子どもの発達と描画について

多くの子どもが自分を中心とする友達や生き物などを描き、自己を表現する描画であった。イギリスのJ.サリーが1895年に、「子どもはみたものを写實的に描くのではなく記憶や知っているものを想像しながら描く。10歳までは、実物(写生)からよりも、想像や記憶から描く」⁽¹⁰⁾と研究結果を発表している。本調査の子ども達もたった1時間で描いたとは思えないような絵をしっかりと生き活きと描いている。自分が一番に表現したい考えや思いをそのまま表現していると考えられるような象徴的な絵であった。

例えば、女子の絵では、「友だちと今度から仲良くしようと思いました。いつもケンカをすることが多いか

らです。絶対にケンカをしたくありません。」と蝶々や花や鳥やブランコに囲まれた友だちとニコニコしている自分自身の絵であり、男子の絵では、金魚が入っている水槽の横にニコニコして立っている自分を描いている。友だちと仲良くする、生きもの(動物)を大切にするという心の健康を意識したものであるが、絵から動きが出てくるような活き活きした絵となっている。子ども時代(11, 12歳まで)は、主観と直観の時代であるといわれ、見たことを自分が感じたように、知っていることや考えていることを、自分の心に納得いくように描くことが子どもの心に自然であり、忠実なことである⁽¹¹⁾。

学級担任が、「クラスの子ども達は明るく、楽しく積極的に絵を描いていた。」と感想を述べている。このように、子ども達が自由に楽しく描画することができたのは、学級担任と子ども一人ひとりとの信頼関係が日常的にできていることも忘れてはならないだろう。

4) 健康追求は目的か、手段か?

本研究の子どもたちは、全員が自分の健康状態を自分なりに描画で表現することができた。しかも生き生きとした元気のある絵を描き、友達と同じではない自分なりの健康認識を表現している。子ども達は「“元気になるために”好き嫌いをなくす。」「“元気になるために”外で運動をする、外で友達と遊ぶ。」、ないしは「“元気でないと”遊べない。」「“元気だから”楽しく友達と運動や遊びができる。」「友達と遊ぶと“心がウキウキしてくる”。」等と表現している。

これらの結果から、子どもの健康認識、言い換えるならば健康追求は目的であると同時に手段であること⁽¹²⁾がうかがえる。自分の心と体を健康な状態に成長・発達させ、維持しようとする姿勢や態度の生活習慣の行動変容は、小学2年生にとって困難な課題ではなく、身近な課題であり、生涯を通した健康の基盤作りとして重要であるだろう。

一方、健康と生活習慣は切り離せない関連性があることから、子どもを見守る我々大人たちにとって「子どもにいかに生き生きとした健康意識を育て、それを実行させていくか。」ということは、学校という教育機関の教育課題であり、家庭及び地域と連携し、協力し合うことが大切であると考えられる。

5) 保健教材としての「心と体を元気にしよう」

(描画)

「授業の楽しさ」は様々なレベルがある。レクレ

シヨンの楽しさもあれば、自己変容を味わう楽しさもある。学習者が楽しかったといえるような授業であることがよい授業であろう。それは、学習者にとって楽な授業だからよい授業とは言えないし、授業者が学習者の中にどのような認識を育てる構想を明確に意識しているのかが重要であろう。この学習者たちは、全員が自分の健康状態を自分なりに表現することができ、しかも生き生きとした元気のある絵を描き、自分なりの健康認識を表現していることから、この描画を取り入れた健康教育は取り組みやすいものであったと推察される。

本来、保健教材としては、「学習者が学ぶ意味のある教材であり、保健の科学的文化的内実が豊富にあるもので、しかも教師を組織者とする学習集団が全員で追求しようとする工夫性を備えた教材である。⁽¹³⁾」ことからすれば、本研究の保健教材としての「心と体を元気に育てよう」は、描画を取り入れたことによって学習者の興味、関心をひきつけ、「自ら楽しく学ぶ教育」を実践できたと言えるだろう。

授業中に使用する言葉について、対象児童の発達年齢を考慮に入れて、「健康の概念」を理解してもらうのに「健康になるにはどうしたらよいか」つまり、「心と体を元気にしよう。」という言葉をあえて使用した。このテーマで自由に絵を描いてもらい、自分の描画に説明文を書くように教示する方法について、二人の学級担任は児童には取り組みやすいものであり、楽しく学習ができていたことが印象的であったと感想を述べている。また、2001年7月にこの子ども達の描画を、アメリカのスクールナース協会のリンダ会長に見てもらったところ、どの描画も子ども達の健康に対する思いや考えが表現され、子ども達が楽しく自主的に描いていることがわかり、すばらしいとの講評を得た。描画を取り入れたこの教材が子ども達の学ぼうとする意欲を刺激するものであったことが示唆される。

5. まとめ

小学2年生を対象とする描画を取り入れた心と体の健康認識についての学習で、子ども達の澁刺と描いた絵と文章から、今後の健康教育の実践に役に立ついくつかの考慮すべき児童の健康認識が捉えられた。

描画を中心に分析した結果、多くの子ども達が楽しそうに遊んでいる自分と友達の様子を描いており、友達との遊びや運動が自分にとって心と体を元気にする重要なものと捉えていることがわかった。また、生き

物を大切にすることが心を元気にすることであると捉え、友達と仲良くすること、喧嘩しないことが心や体を元気にしていくことにつながることを実感している児童が多くいることがわかった。一方、生活習慣の早寝早起き、好き嫌いのない食事、うがいや手洗いなどについては、あまり実行されていなかったが、大切なことと理解し納得し、さっそく実行しようとする姿勢や行動変容を表現している児童もいた。

心と体の健康についての描画や文章を分類して総合的に分析をしたところ、多くの子どもたちが心と体の両方について表現していた。友だちとの遊びや運動での快感と生き物への思いやりなどの大切さを実感しており、心と体の健康の両方が同時に自分にとって大切なことを認識していることが示唆された。

本研究の保健教材としての「心と体を元気に育てよう」は、描画を取り入れたことによって学習者の興味、関心をひきつけ「心と体の健康を自ら楽しく学ぶ」教育になり得る事が示唆された。

謝 辞

本研究の調査に快く協力いただきましたY小学校2年1, 2組の児童の皆様、学級担任の先生、校長先生に心から感謝申し上げます。また本研究の分析にあたり、ご意見を賜りました健康教育の専門家の方々に深く感謝申し上げます。

引用文献、注

- (1) 数見隆生:教育保健学の構図 大修館書店 32-38 28-29 1994
- (2) 文部省:小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社 1-12 1999
- (3) 文部省:小学校学習指導要領解説 体育編 東山書房 2-6 42-43 1999
- (4) 森昭三 和唐正勝編:新版 保健の授業づくり 入門 大修館書店2-18 2002
- (5) 数見隆生:教育保健学の構図 大修館書店 141-142 28-29 1994
- (6) 霜田静志: 児童画の心理と教育 金子書房 306-314 1968 306-314 1968 J.Sully. Study of Childhood London 1895
- (7) (6) に同掲
- (8) (6) に同掲
- (9) S. Hall: Educational Problem, U.S.A 1911
- (10) 霜田静志: 児童画の心理と教育 金子書房 309-314 1968 J.Sully. Study of Childhood London 1895
- (11) 吉田きみ子: 絵に見る子どものサイン 増補改訂版 文化書房博文社 192-200 2000
- (12) 森昭三: 変革期の養護教諭 大修館書店3-29 1994
- (13) (5) に同掲
- (14) 江口篤寿, 高石昌弘 吉田榮一郎 編: 現代学校保健全集 教育と保健 33-42 1987

参考文献

- 1) 波多野完治: 子どもの認識と感情 岩波新書 1-16 1975
- 2) 森昭三: 心とからだを育てる保健学習 学事出版 142-147 1998
- 3) 名張淑子: 絵に写された心のSOS 図書印刷 73-78 1998
- 4) 吉本均編: 学習主体形成と評価活動 明治図書 1984
- 5) 香川勇, 長谷川望: 子どもの絵が訴えるものとその意味 黎明書房 159-164 1997

The Health Education using the Drawing Method at the Second Grade Class — A Study for the Elementary School Children's Recognition of the Health —

Ayako Yoshida

<Abstract>

The purpose of this study is to investigate the possibility of the effective health education by surveying the recognition about both mental health and physical health of the second grade children in the elementary school. Some results were obtained by the analysis about the drawing with the explanation sentence expressed by the children.

A lot of children drew the picture on which they were playing happily with the friends, and they thought that the playing and the outdoor exercises were important for making both the mind and the body energetic. Moreover, they thought that not quarreling with friends and taking care of the animals safely made their mind energetic. On the other hand, nevertheless they did not practice so much something good for health such as going to bed early and getting up early, eating a meal without tastes, gargle and washing hands, they understood the importance of them and they were trying to put into practice

Considering these results, it is suggested that adopting a drawing may be effective on the health education in the elementary school lower grades, because children have their own characteristics to express an impression and memory in their heart as it is.

Key word : mental health and physical health, health education, drawing, children,
recognition of health